八月八日出生十九歳にして初て秀の山と名乗り後達ケ
関成右衛門と申し八ケ年の間に三ケ津にて組合弐百弐拾
番目に成十一番目に成又右七番頭取頭に成申候間勝負無
之候て勝角力百八十弐番と相成安永七年谷風梶助
と名乗る時右七歳脊長六尺余目方四拾三貫目と相成寛政元
酉年中朝右撲取御仕事若岡遊風儀人より横綱を
免され名誉並者なき谷風も毎常の風より勝事少く
ハすして惜むべし寛政七年乙卯正月齢四十二歳
にして黄泉に帰し法名釋性谷風子風仙房東漸
寺に葬送に委しく記す

拾万両御用金の事

寛政十二年庚申夏江戸表より大坂町人十二軒へ用金
拾万両仰付られ其内人数左の通
鴻池善右衛門　同　善四郎　同　又右衛門　平野屋又兵衛
鴨屋市兵衛　米屋平右衛門　長屋久兵衛　駕屋久兵衛
加嶋屋作兵衛　炭屋右兵衛　炭屋安兵衛　近江屋休兵衛

四天王寺火事

享和元年酉十二月四日夜八ツ時分小雨降り雷鳴天王寺

焔の二重円〳〵雷落夫ゟ雷火金堂へ移り諸堂二拾七棟焼
矢太子堂ゟの門より猫の彫物ゟ世人九甚之命の化といふ
伝り元朝式ゟ出ず多と養すといふく猫出門ゟ多ゟ今所
雑波村百姓集式彫物ゟ離して持帰り火移りて天王
寺へ道近し今ゟ掛ち山猫の門太子堂の小ゟ有し
又虎の厨ゟ多ゟ出セし門太子堂の西之四脚門ゟ入も
虎の門ともいふ知ら人ゟ入ゟ猫の門ハ世ゟ右ゟ出ず
右彫物ゟ式度の四脚残れり虎の門ハ陽ゟ出て猫の
門ハ陰ゟ是陰陽二四脚門と入るとそ

一 蓮池茶撞桜仮堂棟上ケ　享和二年壬戌正月十六日天満市場右野屋九右衛門建立
一 皇太子影堂　飛井水仮堂　同年二月大阪某寄進
一 引導撞鐘　文化四年卯四月廿二日ゟ同廿六日迄御仏事
一 同撞初　同年十月廿ゟ十六日迄
一 所始　同丑年辰二月廿八日
一 地築并地ならし　同年四月二日ゟ同廿三日迄

天王寺諸堂再建積書之事

一 東興人撞現様御宮　銀二拾二貫三百八拾匁
一 金堂　同丑百八拾弐貫百八拾七匁二下

一　又重塔　　同九百二拾四貫四拾二文
一　講堂　　同二百二拾四貫二百八拾八文
一　六字堂　　同千弐百拾文貫八百八拾二文
一　太子堂　　同四百二拾四貫四百四文
一　寶藏　　同文拾二貫文百九文
一　右七ヶ所共代　　同四百貫七百二拾四文
一　仁王門　　同四百貫七百二拾四文
一　西重門　　同百四拾九貫七百文拾四九
一　四扉内井戸屋形　　同二貫四拾七文九
一　四扉　　同百九拾文貫八百四拾文

一　樂屋　　同拾文貫文百二文八
一　舞屋　　同拾弐貫三百廿七文四
一　鐘楼　　同百八貫弐百九十七文七
一　鼓楼　　同百弐拾九貫文百廿文文
一　食堂　　同百弐拾九貫文百廿文文
一　太子藥地　　同三拾弐貫文百廿七文四
一　西四脚門　　同拾八貫二百拾文二
一　同小四脚門　　同拾貫二百拾文二
一　同唐門　　同拾八貫二百拾文二
一　同鐘楼　　同二拾弐貫七拾四文八

一御棚所　同拾貫四百拾七匁八分
一経堂　同八貫百拾七匁八分
一熊野社　同弐貫百六拾匁八分
一神明社　同弐貫弐拾七匁六分
一大子門井戸屋形　同三貫百目
一御厩所　同八拾六貫七百拾三匁九分
一十文社　同八拾三貫百六拾六匁一分
一南大門　同三百八貫三百拾六匁五分
一山王社　同三貫八百八拾六匁三分
一三昧堂　同三拾八貫四百七匁七分

一石神堂　同八百十匁
一御供所　同拾八貫八百八拾七匁三分
一経書堂　同三貫八百八拾七匁三分
一閼伽井堂　同三貫百十七匁三分
一亀井堂　同拾貫八百九拾弐匁三分
一方丈門（焼残り）　同弐貫八百目
造作入用　同八百目
一西門所落　同四貫四百七匁
造作入用
一僧侶十二ヶ院入用　同三百七拾三貫百目

一諸堂修代　　同壱貫目

一普請小屋　　同弐貫百拾匁

一床板小屋　　同壱貫七百九拾七匁

一講師旅宿小屋　　同壱貫二百九拾弐匁

〆銀六千四百拾三貫百二拾匁弐分

外ニ諸堂用具不足調ル

銀九拾八貫弐百拾壱匁八分

拾河洪水の事

享和二年二月十八日両日風雨ニ付翌七月朔日より

洪水拾河ニ落れ村邑弐百餘ヶ所水災の百姓等東西奔走

しと悲歎ならしめ　公命有て難立くも吏食を給り水難

の数百人面々を清き飢饉たるは　御仁政仰ぎて仰へき

御恩深き頭よりそ難思又大坂市中の施り粥を給り遠

近の小邑といへども洩届さる事ハ

河内　交野郡八ヶ村　若江郡廿二ヶ村

河内郡四ヶ村　茨田郡八十九村　摂津郡廿二ヶ村

泉川郡十ヶ村

拾河　東生郡廿二ヶ村

高安郡廿七ヶ村

平野郡廿二ヶ村

〆村合弐百三拾七ヶ村

惣高　拾弐万三千八拾八石四斗弐合